

Graphics with Processing



2006-11 シェーディングと
テクスチャマッピング

<http://vilab.org>

塩澤秀和

11.1 シェーディング

シェーディング

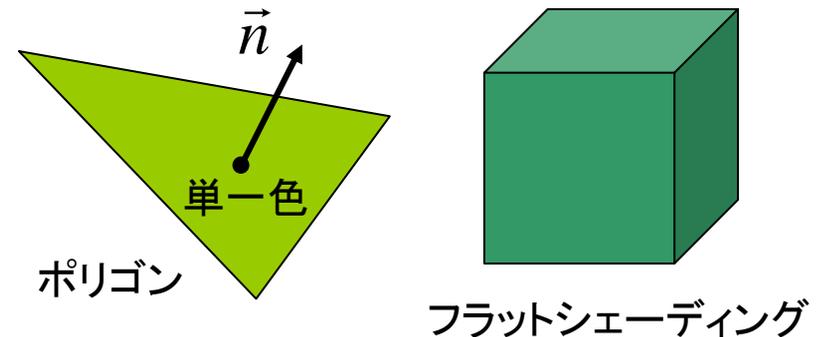
- シェーディングとは
 - Shading=陰影づけ
 - 光の反射・材質のモデル(前回)
 - ポリゴンの陰影計算モデル
= シェーディングモデル

シェーディングモデル

- フラットシェーディング
 - ポリゴンを単一色で描画
- スムースシェーディング
 - ポリゴンの色を滑らかに描画
 - グローシェーディング
 - フォンシェーディング

フラットシェーディング

- 各ポリゴンを単一色で描画
 - ポリゴンの代表点(例えば重心)の法線ベクトルを利用
 - それを用いて光の反射を計算し、面全体の描画色を決定
 - 各面は単一色で塗りつぶす
 - もっとも単純で高速



11.2 グローシェーディング

グローシェーディング

□ 頂点間の色を補間

- 隣接する面の関係を考慮して、各頂点の法線ベクトルを設定
- 頂点ごとに光の反射を計算し、描画色を計算
- 面全体の色は、頂点の間の色を線形補間して、滑らかに描画
- 頂点ごとに、法線ベクトル・色・材質パラメータを設定できる

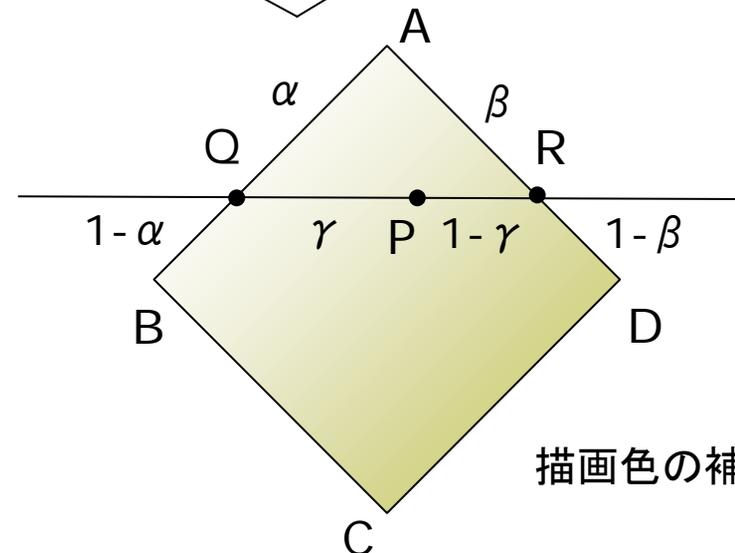
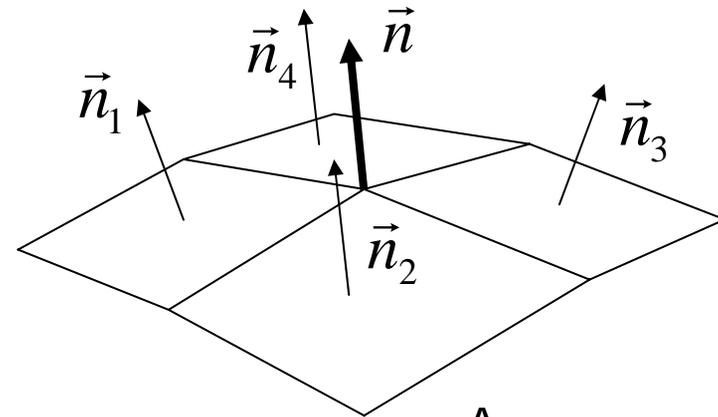
□ 描画色の計算式

$$C_Q = (1 - \alpha) C_A + \alpha C_B$$

$$C_R = (1 - \beta) C_A + \beta C_D$$

$$C_P = (1 - \gamma) C_Q + \gamma C_R$$

隣接面の法線ベクトルを
平均化した頂点の法線ベクトル

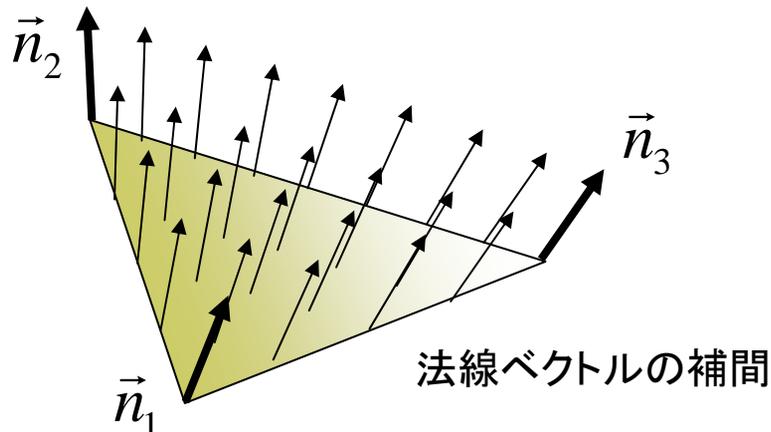


描画色の補間

11.3 フォンシェーディング

フォンシェーディング

- 法線ベクトルを補間
 - 色でなく、法線ベクトルそのものを線形補完する
 - ピクセルごとに法線ベクトルから光の反射を計算して色を決定
 - 法線ベクトルの補間の方法は、グローシェーディングの描画色の補間と同様



その他参考

- ポリゴンのグラデーション
 - グローシェーディングの副作用
 - ポリゴンの頂点に別々の色 (fill) を指定すると滑らかにつなぐ色
- 法線ベクトル
 - 反射光の計算に必要(10.4)
 - 通常, 自動的に計算(10.5)
 - 自分で設定することも可能
- normal(nx, ny, nz)
 - 法線ベクトルを明示的に設定
 - vertexの前に指定
 - 使用例

```
normal(1.0, 0.0, 0.0);
vertex(2.0, 3.5, 3.4);
```

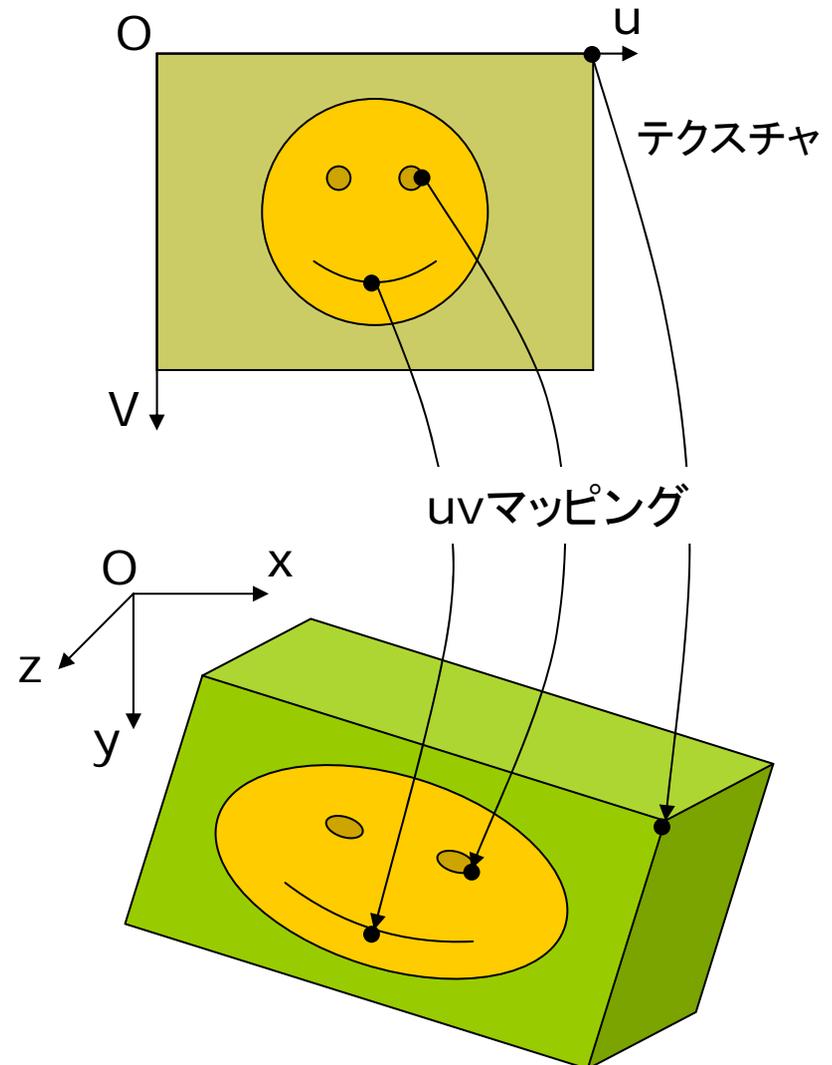
11.4 テクスチャマッピング

テクスチャマッピング

- テクスチャマッピングの役割
 - テクスチャ=模様画像
 - 立体にテクスチャ(画像)を,シールのように貼りつける
 - 質感を表す効果てきめん
 - 例) 球に世界地図を貼りつける,人体モデルに肌を貼りつける

- uv座標(テクスチャ座標)
 - テクスチャ画像の2次元座標
 - (x,y)のかわりに(u,v)を用いる

- uvマッピング
 - 2次元のテクスチャ画像を3次元空間の面に貼りつける対応づけ
 - 画像(u, v) → 空間(x, y, z)



11.5 テクスチャマッピング関数

テクスチャマッピング

- texture(画像)
 - 画像: PImage型(5.3参照)
 - テクスチャの設定
 - beginShape(), endShape()
の中で指定する
- vertex(x, y, z, u, v)
 - 通常のvertex(x, y, z)の処理に加え, その点をテクスチャ座標(u, v)に対応づける
 - vertex(x, y, u, v): 2次元用
- textureMode(座標モード)
 - uv座標の指定モード
 - IMAGE: 実際の画像の座標
 - NORMALIZED: 0.0~1.0

□ 使い方

```
PImage tex; // テクスチャ画像

void setup() {
  // 省略...
  tex = loadImage("画像ファイル");
}

void draw() {
  // 省略...
  beginShape(図形モード);
  texture(tex);
  textureMode(座標モード);
  vertex(x1, y1, z1, u1, v1);
  vertex(x2, y2, z2, u2, v2);
  // 省略...
}
```

11.6 サンプルプログラム

```
// 画像はグローバル変数推奨
PImage tex;

void setup() {
  size(300, 300, P3D);
  tex =
    loadImage("kouji50m.jpg");
  // テクスチャファイルは講義ホーム
  // ページからダウンロードし登録
}

void draw() {
  background(0);
  translate(width/2, height/2);
  scale(0.5);
  rotateY(-radians(frameCount));
```

```
  beginShape(QUADS);
  noStroke();
  texture(tex);
  textureMode(NORMALIZED);
  vertex(-40,-100, 0, 0, 0);
  vertex( 40,-100, 0, 1, 0);
  vertex( 40, 100, 30, 1, 1);
  vertex(-40, 100, 30, 0, 1);

  fill(#ffffff); stroke(#555555);
  vertex(-40,-100, 0);
  vertex( 40,-100, 0);
  vertex( 40, 100, -30);
  vertex(-40, 100, -30);
  endShape();
}
```

11.7 複雑なオブジェクト

複雑なオブジェクトは、大きさ1を目安として作成し、関数にしておくとしやすい

雪だるま

```
void snowman() {  
  fill(255, 255, 255);  
  noStroke();  
  pushMatrix();  
  translate(0, -0.7);  
  sphere(0.2);  
  popMatrix();  
  pushMatrix();  
  translate(0, -0.3);  
  sphere(0.3);  
  popMatrix();  
}
```

円錐(底なし)

```
void cone() {  
  pushMatrix();  
  beginShape(TRIANGLE_FAN);  
  vertex(0, -1, 0);  
  for (int th = 0; th <= 360;  
       th += 10) {  
    float x = cos(radians(th));  
    float z = sin(radians(th));  
    vertex(x, 0, z);  
  }  
  endShape();  
  popMatrix();  
}
```

木(のようなもの)

```
void tree() {  
  pushMatrix();  
  fill(0, 255, 0);  
  translate(0, -0.3, 0);  
  scale(0.2, 0.7, 0.2);  
  cone();  
  popMatrix();  
  pushMatrix();  
  fill(100, 0, 0);  
  scale(0.1, 1, 0.1);  
  cone();  
  popMatrix();  
}
```

11.8 期末レポート

レポート課題

□ 内容

- Processingでコンピュータグラフィックスの「作品」を作りなさい

□ テーマ(どれか選択)

- 「クリスマス」、「お正月」、「雪」

□ チーム制

- 3人までのチームを組み、協力して1つの作品を作ってもよい
- レポート(文書)は1人ずつ書き、誰とチームを組んだのかを明記

□ 提出

- 締め切りは、1月22日(月)
- 期末試験は期末試験で行う(プログラミング以外の内容)

□ 形式

- 文書(紙): A4レポート用紙
- プログラム: Webページで提出

□ 文書の構成

- 氏名: 必ず1ページ目に書くこと
- 概要: 作ったプログラムの概要
- 作成手順: どういう手順で作品を作成したか(分担も)説明
- 使用技術: アニメーション, モデリングなど使ったCG技術を解説
- プログラムの構造: 自分のプログラムの構造を説明
- まとめ: レポート全体のまとめ

□ 注意

- 文章は「です・ます」ではなく、「だ・である」で書くこと

来週あります!



12月25日(月)
今年の最終授業日